

威風堂々

いよいよ入試だ。中三生は、既に何校か受験した人がほとんどのはずだ。人生の中で「受験」を経験する機会はそう多くはない。君たちは今、その数少ない機会の真ただ中にいる。気迫を持って、今まで手にしてきた知識を全力で解答用紙にぶつけてきてほしい。心からそう願う。

私の高校入試はどうだったか。記憶をたどり頭によぎったのが、エドワード・エルガーの行進曲『威風堂々』の旋律だ。入学式の行進やサッカーの応援、CMなどで耳にしたことがあると思う。はじめは静かにテーマが流れるが、テーマの最終部から演奏が盛り上がり、二度目のテーマではタイトルどおり勇ましい演奏となる。自分の気持ちが無理なく高揚され、緊張感が少し取り除かれ、立ち向かう勇氣が与えられる——自分にとってはそんな曲だ。そんな旋律が入試当日、自分の受験番号が貼られている席に着いたときから、脳内でリピートされていた。



そんな自信に満ちあふれた状態で受験に臨んだのか。全くそんなことはない。冬期講習から受験直前まで、私の成績は低迷していた。私の場合、加入していたオーケストラ部の引退が十月下旬だった。九月以降は練習を減らしていたが、学校・部活・塾を両立し規則正しい生活を送っていた。しかし、部活を引退して勉強に割ける時間が多くなった途端、何をどの順番でどのくらい時間をかけて勉強すればいいのかわからなくなり、私の生活リズムは一気に崩れた。そのままずるずると勉強していたが、「これは本当にまずい！」と思ったのが十二月の模試を終えた段階。ここに至って何がまずいのか、自

分に素直になり塾の先生と具体的に掘り下げてみた。

第一…ミスが多い…：時間内に終わらせたい気持ち強く、問題文をあまり読まずに解いていた。また途中計算を省略し、出た解答をあまり確認せずに書いていた。これらのミスが積み重なりと全問題に触れても総合得点は高くない。全体を見渡して得点できる問題を丁寧に確実に解く必要がある。

第二…演習をやったような問題が解けていない…：それまで授業などで触れるだけでほとんど理解しようとしていなかった。それでは現状を維持するだけであり、得点を上げるためには解き直しをしつかりと身につける必要がある。

第三…苦手科目を克服しようとしていない…：得意科目ばかりに時間をかけても苦手科目の成績は下がっていくばかりである。全科目にまんべんなく取り組む必要がある。

他にもあった気がするが、主だったポイントはこの三点だった。それからやる内容を授業テキストと過去問にしぼり、毎日、その一日で何を勉強するか決めて取り組んでいった。また過去問を模試と捉え、時間をはかりどの問題にどのくらいの時間をかければよいか考えながら取り組んだ。

それでも、初の受験は散々なものであった。極度に緊張してしまい、手汗を握りながら、選択問題で激しく迷い、解けそうで解けない問題に時間をかけすぎた。結果は不合格。しかしその後、得点できそうな分野に集中的に取り組むということはしたが、それ以外は特に勉強の仕方を変えなかった。そして、二校目の受験から部活で練習していた『威風堂々』を脳内で流すことにした。勝手に流れてきたのではない。気持ちを落ち着かせ高揚させるために自分で流しただけだ。試験前に石鹸で手をよく洗うということもした。頭が爆発しそうになったら深呼吸した。どちらもコンクール本番のとき、おまじないのよう

によくやっていたことだ。

いよいよ入試だ。もうここまで来たら逃げられないよ。入試に堂々と立ち向かうしかないじゃないか。入試から帰ってきたらいつもどおり、やるべきことを一杯やるしかないじゃないか。時間はまだあるから最後まで取り組むこと。

最後、第一志望校の受験では『威風堂々』が勝手に脳内で流れてきた…：気がする。皆さんが入試で無事全力を出せるように応援しています。(本多)

高校入試直前の注意

●いよいよ受験シーズンの到来だ。志望校合格を目標に努力してきた人にとって、その努力の成果が試される時だ。自分の持てる力を十分に発揮して、合格を果たしてほしい。今回は、直前の注意をしておく。

●気合を入れ直そう。入試は本当に疲れます。まして、途中で不合格を経験すると全身の力が抜けて、何もしたくないと思うもの。実はこれがチャンスなのです。「今のままではいけない。真剣になりなさい。」という天の声。一日でも早く立ち直って、もう一度頑張るのです。歯をくいしばって、残りの日を過ごすのです。やるべきことをやるのです。

●ケアレスミスは、命とり！いくら力があってもミスによる失点が多ければ合格はおぼつかない。但し、当日にミスをしないようにあめしよう、こうしようと考えすぎるのは禁物。前日までに自分が落としたところを何回もやって頭の中にミスのパターンを焼き付けておくこと。そうすると、当日はかなり防げる。

●字は丁寧に。紛らわしい字は全て×になるというのは、採点官の話です。

●問題はよく読め！ミスをしないためにも、問題をきちんと読むことが必要である。記号で答えるべ



きものを、語句で答えたりしないよう十分注意すること。

●理社は試験当日まで、いくらでも伸ばせる！弱い部分があれば、集中的にやること。また、社会は、時事問題も忘れずに目を通しておくこと。

●数学は、計算ミスを絶対にしないように！そのためにも、今までの計算ミスが発生した問題を解き直しておくこと。また、全問解けなくても慌てないこと。解けるものから確実に解いていくように。

解答欄はすべて埋めること！どんなに学力があっても、すべての問題に解答できるはずがない。当然、分からない問題もあるはずだ。そのときは、得意の勘を働かせて答えを書き入れること。もしかしたら正解かも知れないのだから…。

●また、千葉県公立前期入試は、一日目に五教科のテストをし、二日目に面接や小論文など、その学校独自の検査を実施することになっているが、とにかく初日が勝負。五教科の学科試験をしっかりと乗り切ることだ。その際、気をつけてほしいのは、悪い科目があっても、それを次の科目にひきずらないことだ。五教科すべてが順調にいくことなどありえないことなのだから。たとえ、一教科、二教科出来が悪くても、他の科目で挽回。例えば、東葛飾高校合格者の中に、国語七〇点台という人がよくいることを紹介しておこう。

●二日目のことは、一日目が終わってから考えるくらいでよい。二日目の検査では、余り差がつかないはずだ。ただし、小論文の検査がある人は、少し準備をしておいた方が良くもしいない。

●最後に、テスト当日は三〇分位時間をとって問題を解いてから家を出ること。そうすることで眠気がとれ、頭が使えやすくなるはずだ。

●とにかく、もう目の前まで来た。精一杯の努力をして目標を達成してほしい。健闘を祈ります。

(小林(健))

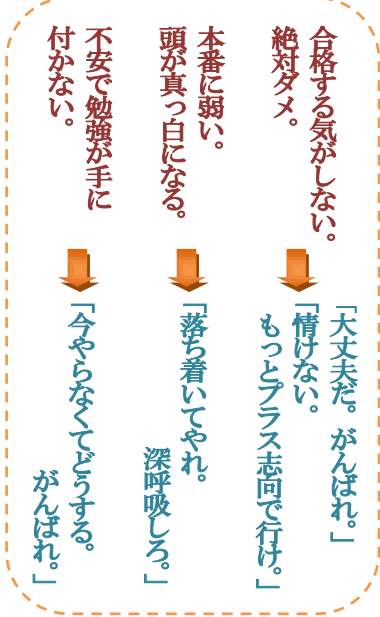
行き詰まったら読め!

受験生に残された日々

過ごし方

●高校入試、大学入試ともに最初の試験が終わったところだろう。思いどおりの結果が出せず悩んでいる人もいるはずだ。そういう人のために今回の記事を用意した。是非読んでほしい。

●苦しいとき、うまくいかないとき、周りの人はキミに様々なアドバイスをしてくれる。思い余ってキミのほうから相談に行くかもしれない。でもなかなかうまくいかない。みんなキミのことを心配しているのだが、キミが求めている答えは返ってこない。キミもズレているし、周りもズレているのだ。少し具体例をあげよう。



●こんな会話が日本中で繰り返られる。かわいそう。本当にかわいそう。キミもキミの周りの人も。で、私は自分の子供達に適切に対応したかといえば、やはりズレていたと思う。自分の子供には、ゆとりがもてなくて、思うことを一直線にぶつけていたような気がする。親とはそういうものだ。

●さて、受験生を教えている立場として、私も当然キミ達のことを心配しているし、祈っている。少しでもいい状態で受験に臨んでほしいと切に思

う。そこで、微力ながらアドバイス。因みに私は、プラス志向という言葉が嫌いだし、受験でも散々苦しんだので、少しはキミの心に近づけるかもしれない。

●まず、次の各項目を読んで該当するものにレをつけてほしい。グループが3つある。

A	B	C
<input type="checkbox"/> 間に合わない。	<input type="checkbox"/> 自信が持てない。	<input type="checkbox"/> 親兄弟が優秀。自分だけがバカ。
<input type="checkbox"/> 自分だけが伸びていない気がする。	<input type="checkbox"/> 集中力が続かない。	<input type="checkbox"/> もっとやっておけばよかった。
<input type="checkbox"/> 不合格になったらどうしよう。	<input type="checkbox"/> 焦りがあるのに行動できない。	<input type="checkbox"/> 時間に縛られる。
<input type="checkbox"/> 問題が変わったらどうしよう。	<input type="checkbox"/> 自分に価値がない。	<input type="checkbox"/> 勉強が嫌い。
<input type="checkbox"/> 他の人は伸びている気がする。	<input type="checkbox"/> 不安で眠れない。	<input type="checkbox"/> 時間が足りない。
<input type="checkbox"/> 本番で失敗しそう。	<input type="checkbox"/> 腹の調子がずっと悪い。	<input type="checkbox"/> 親が嫌い。孤独。

●これは、過去の高三生と一緒に作った「心の地図」と呼ぶリストの一部である。40項目あつて、30以上にレが入った人が何人もいた。みんな苦しんでいるのだ。そして、ここから大事なのだが、この18項目で自分に該当することをキミは、全部

他の人に言えるだろうか。自分ではいつでも書き出せるだろうか。無理である。キミの心は、同時に複数のことを感じることはできないので、**A・B・C**の間を行ったり来たりしているのだ。キミの心は、他の人にはなかなか分からないし、何よりキミ自身にも分からないものなのだ。仮に全部言えるとしても、今度は苦しくてきつと泣き出してしまおう。

●ともあれ、キミ達は進まなければならない。そのために、先の表を使って、心の整理をしよう。まず、**A**は、事実か想像か? 全部想像である。やってみないと分からないことである。こんなことを心配して、今までいいことがあったかい? 1回もなかったはずだ。当然! 「合格したい」という自分の願望を裏切っているからだ。キミのこの1年間は、**A**を想像して自分の願望を裏切るためにあつたのか? よく考える。**結論!** **A**を思うことは自然である。自然だから消えうとしなくてもよいし、また消すのは無理。思ってしまったら、「また来た。仕方ない。とにかく今、やれることを精一杯やろう。」と



言い聞かせること。
●次は**B**グループ。**A**グループに心を奪われているので**B**になる。自信は待っていても出ない。集中できないのはやらないから。焦りはやらないから生まれる。やらないから自分に価値がないと思う。やらないから不安が大きくなる。やらないから腹の調子も悪くなる。みんな、順番が逆なんだ。**結論!** **B**を思うのは自然である。まず**A・B**を感じたら、持ったまま「また来た。仕方ない。とにかく今、やれることを精一杯やろう。」と言いつつ聞かせろ!

●**C**グループ。これはあきらめろ。終わったことだし、勉強が好きな奴なんかいない。あきらめろ。
●さあ、もう一度**A・B・C**を見よう。再度言うが、思うのはよい。大事なものはキミがどうするかだ。**A・B・C**に心を向けて時間を過ごすのか、持ったまま、自分の夢に向けて精一杯やることをやるのか。自分で決める。

●最後に。ある大学受験生の話を。彼女は、10校受験。精神的に弱い所はあったが、半分以上の大学は合格するだろうと本人も周りも思っていた。ところがとんでもない事態が起こった。初回の第十志望の大学は、当然合格。しかし、そのあと、連戦連敗が続いた。第九志望、第六志望、第七志望、第四志望……。志望順には違わぬが、受ける大学受ける大学と不合格。このつらさがキミ達に分かるか。受験から帰ったら不合格の通知。悲しくて泣きじゃくる。でも次の日も入試。もどいたらまた不合格の通知。生きる気力もなくなるほどつらい。だがまた入試会場へ向かう……。こんなことが八回も続いた。彼女はおそろしく一生分の涙を流したところだろう。そして……。

最後に神は大きな贈り物を用意していた。第一志望早大文学部合格。電話で喜びの報告をする彼女の声に、「バンザイ。バンザイ。」と家族の叫び声が重なる。本当につらかっただろう。8連敗の日々。彼女も家族も。しかし、彼女は偉かった。やり続けたのである。家族も偉かった。彼女を支え続けたのである。さあ、キミ。まだ入試は残っている。あきらめずにやり続けよう。

(小林 健)

▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡ください。